

ディスコグラフィー収載

ディスコグラフィー【2025No.205】(HP 収載)

分類 : LP

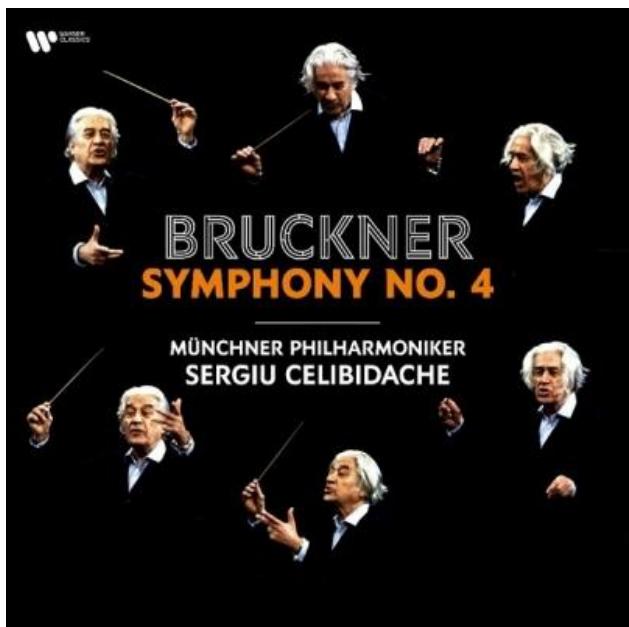
作曲家 : アントン・ブルックナー

曲名 : 交響曲第4番 変ホ長調『ロマンティック』(ハース版)

演奏 : セルジュ・チェリビダッケ指揮ミュンヘン・フィルハーモニー管弦楽団

発売 : Warner Classics

No. : 9029673108



概要 :

【収録曲】

ブルックナー : 交響曲第4番 変ホ長調『ロマンティック』(ハース版)

SIDE A: I. Bewegt, nicht zu schnell

SIDE B: II. Andante quasi allegretto

SIDE C : III. Scherzo: Bewegt – Trio: Nicht zu schnell. Keinesfalls schleppend

SIDE D : IV. Finale: Bewegt, doch nicht zu schnell

【演奏】

セルジュ・チェリビダッケ (指揮)

ミュンヘン・フィルハーモニー管弦楽団

【録音】

1988年10月16日、ミュンヘン、ガスタイク・フィルハーモニーでのライヴ

【解説】

「「録音された音楽」を完全否定し、生の演奏だけが本物の音楽であると主張し続けたチェリビダッケ。特に得意としたブルックナーの作品演奏には、聴き手の音楽観を根本から変えるほどの出来事として、現在では CD などに刻まれ伝えられています。この 1988 年ミュンヘンでのライヴ録音では、チェリビダッケお得意レパートリーであり、特に終楽章コーダでの極端なまでのスロー・テンポ＆刻みによる演出と、随所にあるこの不思議なフェイント感はチェリビダッケ独自の理論によるもの。第 1 楽章のホルンの出だしからの常なる透明さ、哀しみと敬虔さをたたえた第 2 楽章、安定した歩みによる第 3 楽章、人間の神なる道を歩み求める崇高な姿を的確に表現した第 4 楽章など、深い感銘を与えてくれる名演です。

今回この名演を、初のアナログ LP 盤として数量限定で世に送り出します。演奏時間がトータル 79 分にも及ぶため、1 面に 1 楽章ずつのカッティングとし、2 枚組（4 面）180g アナログ LP 盤仕様となります。数量限定生産盤となりますので、早めのご購入を！」

Warner Classics のイコライザー特性は、ZANDEN のリストにはありませんが、Warner Brothers のオリジナル盤は、RIAA、R、第 4 時定数 Mid、Warner Brothers の国内盤は、EMI、R、第 4 時定数 Low となっており、これらを参考に聴いていきました。収録は 1988 年で比較的新しく、ライヴ収録です。

RIAA、N、第 4 時定数 High からスタートし、ついで RIAA、R、第 4 時定数 High、さらに RIAA、R、第 4 時定数 Mid としたところで落ち着き、Warner Brothers の特性と同じになりました。

チェリビダッケのこの曲に関する解釈は、上記の解説どおりですが、上記の設定で、定位もよく、個々のパートの音は鮮明です。音質的な表現は、チェリビダッケの音の協和へのこだわりが、弱音の繊細さや強奏の厚みとして具現化されています。音質は緻密であり、演奏は密度感の高い盤と言えます。

ブルックナーの交響曲第 4 番は、ベーム指揮ウイーフィル盤がありますので、機会を見て聴き比べてみます。

以上